

39. 教育関連支援事業の変遷

能力開発促進機構よりイノベーションセンターへの組織改編が行われ、教育関連支援事業は、産業界、研究・教育機関等と連携し、機械工学技術者の資質維持・向上を図り、国際的に通用する技術者とするため、能力開発・継続教育に関する活動を行い、学会として将来的に事業化を図ることを目標に萌芽的な事業の検討を行う技術者教育委員会、会員シニアの技術的知見の活用と会員サービス向上を目的として、学会 WEB を窓口とした技術相談、地域産業振興の主体となる中小企業の支援や、教育現場、公共機関などにおける活躍の場を創出する人材活躍・中小企業支援事業委員会、日本技術者教育認定機構（JABEE）による技術者教育プログラムの認定審査の支援および関連する本会事業の企画を実施する JABEE 事業委員会などにより、教育ならびに人材育成事業を行っている。

なお、2005 年 7 月より開始した継続教育のための CPD (Continuing Professional Development) ポイント制度は、本会会員の利用が少ないことから、2014 年 10 月に「CPD 運用に関する協力協定」より脱退した。

【教育関連】

2007 年度（第 85 期）

〔教育支援関連事業委員会（能力開発促進機構）〕

1. インターンシップのあり方として抽出した 4 つのカテゴリに対し、本会が運営する事業や組織体制の観点からマッピングを行い、本会が寄与可能な形態に関する検討を行った。
2. 初中等教育における工学・技術教育の促進対策を検討し、ティーチングアシスタントへのシニア活用の仕組が重要であることを抽出した。また実行に際して有用となる、能力開発促進機構における人材育成事業と産官学連携センター技術相談事業委員会のシニア活用との協働について検討した。

〔大学院教育懇談会（能力開発促進機構）〕

1. 2007 年度年次大会特別企画のワークショップ「大学院教育を考える・パート3」の企画実施をおこなった。
2. 報告会を開催（大学院教育に関する北米調査報告、大阪大学における人材育成目標に関しての取り組み）
3. 修士論文研究の評価基準についての検討を行った。
4. 2008 年度年次大会特別企画の検討を行った。

〔能力開発支援事業委員会（能力開発促進機構）〕

1. CPD ポイントの共通化を目的に機械系関連学協会による CPD 連絡会を設立し、6 学協会と協力協定を締結した。
2. 本会認定・認証事業への CPD ポイントの活用を検討した他、技術士に要求される継続学習に対する CPD ポイントのあり方を、技術士会と検討した。
3. 年次大会テーマ企画「人材育成とものづくり強化」にて「継続的能力開発（CPD）の現状と未来」を企画し実施した。
4. 会誌 2007 年 7 月号の小特集に「技術者の継続教育と技術資格」に関する記事を掲載した。

2008 年度（第 86 期）

〔教育支援関連事業委員会（能力開発促進機構）〕

1. インターンシップのあり方として抽出した 4 つのカテゴリを更に深耕した。産学双方のメリットを明確にし、実施に向けた具体化策の検討を行った。
2. インターンシップの有益性をアピールするため、委員会提言を策定した。併せて周知に向けた方策として、HP や会誌への掲載、次年度以降の年次大会での特別企画などの計画を行った。

〔大学院教育懇談会（能力開発促進機構）〕

1. 博士課程卒業生の現状と問題点について意見交換を行った。
2. 2009 年度年次大会特別企画の検討を行った。
3. 機械工学分野における大学院教育の国際同等性について、さらに情報交換と検討を進めていく事とした。

〔能力開発支援事業委員会（能力開発促進機構）〕

1. 前年度に協力協定を締結した 6 学協会による CPD 連絡会の活動を継続した。
2. 機械系技術者の統一 CPD 資格認定制度および CPD 表彰制度について議論を行った。本資格は機械系技術者が継続教育を行う上での動機付けと活性化を目的としている。

39. 教育関連支援事業の変遷

3. CPD ポイント登録用に新たなカードリーダーシステムを開発し、希望する学協会に対して無償提供を行なった。

2009 年度（第 87 期）

〔技術者教育委員会（イノベーションセンター）〕

1. 学会プレゼンス向上（潜在・新規会員増強）と会員メリット向上（会員継続）に着目し、具体的事業についてのみならず、学会全体の教育・人材戦略についての議論を行った。
2. 2009 年 9 月に「ものづくり企業管理者のための技術・経営体験講座」を中小企業大学校東京校と連携して実施した。
3. 「技術士養成講座」について、昨年度実施の A コース（講習会）に加え、6 月に B コース（通信教育と講習会）、11 月に C コース（通信教育と講習会）を実施した。今後の実施方法について検討し、2010 年度は本年度と同様に実施する旨を決定した。
4. 9 月に経済産業省 産業技術人材育成支援事業「学会機能を活用した実践／基礎運動型ハイブリッド講座の開発による革新的機械系実践教育」が採択され、まず全国機械系学科長及び特別員への、「産学連携による学生のための実践的教育に関するアンケート調査」を実施した。

2010 年度（第 88 期）

1. 学会プレゼンス向上（潜在・新規会員増強）と会員メリット向上（会員継続）に着目し、具体的事業についてのみならず、学会全体の教育・人材戦略についての議論を行った。
2. 将来的な CPD ポイントの運営・活用についての議論を行い、今後、本委員会として CPD ポイントに関する方針を審議・発信することとした。
3. 9 月に中小企業技術者向けに「ものづくり企業管理者のための技術・経営体験講座」を中小企業大学校東京校と連携して実施した。
4. 「技術士養成講座」について、6 月に B コース（通信教育と講習会）、11 月に C コース（通信教育と講習会）を実施した。A コース（講習会）は参加者が少ないため開催を中止した。
5. 12 月に経済産業省 産業技術人材育成支援事業「学会機能を活用した実践／基礎運動型ハイブリッド講座の開発による革新的機械系実践教育」の最終報告会を実施し、「実践教育とは、その在り方と進め方は」と題して、初めての形態の「ラウンドテーブルディスカッション」を実施した。
6. 9 月に、経済産業省受託事業の一環として、学生会と連携して学生向け「Progress Factory 研修バスツアー(3泊4日)」(参加：10校, 24名)を実施した。

2011 年度（第 89 期）

1. 学会プレゼンス向上（潜在・新規会員増強）と会員メリット向上（会員継続）に着目し、具体的な事業展開も含め、学会全体の教育・人材戦略についての議論を行った。
2. 将来的な CPD ポイントの運営・活用についての議論を行い、今後の CPD ポイント制度方針を審議・発信することとした。
3. 「技術士養成講座」について、6 月に B コース（通信教育と講習会）、7 月に A コース（特別講演会）、11 月に C コース（通信教育と講習会）を実施した。
4. 8 月に（独）中小企業基盤整備機構と連携して、中小企業技術者向け「中小企業技術者と学生交流研修バスツアー(3泊4日)」を実施した。
5. 9 月に中小企業大学校東京校と連携して、中小企業技術者向けに、ものづくり技術・交流研修事業「ものづくり企業管理者のためのロボット技術体験講座」を実施した。
6. 2012 年度工学教育連合講演会の幹事学会を本会が引き受けることとした。

2012 年度（第 90 期）

1. 学会プレゼンス向上（潜在・新規会員増強）と会員メリット向上（会員継続）に着目し、具体的な事業展開も含め、学会全体の教育・人材戦略についての議論を行った。
2. 将来的な CPD ポイントの運営・活用についての議論を行った。また、JSME レクチャラ制度並びにエンジニア制度の創設を検討した。
3. 「技術士養成講座」について、7 月に A コース（講習会）、6 月に B コース（通信教育と講習会）、11 月に C コース（通信教育と講習会）を実施した。
4. 日本工学教育協会主催 2012(平成 24)年度工学教育連合講演会について、幹事学会として 10 月に開催した。

39. 教育関連支援事業の変遷

2013年度（第91期）

1. 学会プレゼンス向上(潜在・新規会員増強)と会員メリット向上(会員継続)に着目し、具体的な事業展開も含め、学会全体の教育・人材戦略についての議論を行った。
2. 将来的なCPDポイントの運営・活用について議論し、ポイント登録方法改定を提案した。また、JSME エンジニア制度の創設を検討した。
3. 「技術士受験セミナー」について、7月にAコース（講習会）、5月にBコース（講習会）、10月にCコース（講習会）を実施した。
4. 日本工学教育協会主催 2013(平成 25)年度工学教育連合講演会について、共催学会として10月に開催した。
5. 本会学会誌8月号機械工学年鑑で「人材育成・工学教育」を執筆した。

2014年度（第92期）

1. 学会プレゼンス向上(潜在・新規会員増強)と会員メリット向上(会員継続)に着目し、具体的な事業展開も含め、学会全体の教育・人材戦略についての議論を行った。
2. 将来的なCPDポイントの運営・活用、並びにJSME エンジニア制度の取り扱いについて、再検討した。
3. 「技術士受験セミナー」について、5月に技術士第二次試験 筆記試験対策コース（講習会）、11月に技術士第二次試験 口頭試験対策コース（講習会）を実施した。
4. 本会学会誌8月号機械工学年鑑で「人材育成・工学教育」を執筆した。
5. 2015年度年次大会の特別セッション企画を検討した。

2015年度（第93期）

1. 5月に講習会『技術士受験セミナー 技術士第二次試験 筆記試験対策コース』を、11月に講習会『技術士受験セミナー 技術士第二次試験 口頭試験対策コース』を実施した。受講者が減少傾向にあるため、次年度以降の実施に関して中止も含め議論を行った。
2. 教材作成や認証事業に向けたPBL教育に関する事例調査を行った。
3. 日本技術士会機械部会例会への講師派遣依頼に対応し、派遣講師に関する議論を行った。
4. 年次大会の特別企画について議論を行い、2016年度もワークショップを企画することを決定した。

2016年度（第94期）

1. 講習会『技術士受験セミナー 技術士第二次試験 筆記試験対策＜添削＞コース』を、2016年5月16日(月)から2016年6月30日(木)までに、講習会『技術士受験セミナー 技術士第二次試験 口頭試験対策コース』を11月に実施した。受講者の減少傾向により、今年度で本企画を終了することとした。
2. 年次大会特別企画で、ワークショップ「学部・大学院での工学教育を考える」を開催した。また、次年度年次大会の特別企画について議論を行い、2017年度もワークショップを企画することとした。
3. 日本技術士会機械部会例会への講師派遣依頼に対応し、派遣講師に関する議論を行った。

39. 教育関連支援事業の変遷

【技術相談・人材育成関連】

2007年度（第85期）

〔技術相談事業委員会（産官学連携センター）〕

1. 技術相談事業件数：16件（有料回答 4件：内1件は引継案件，無料回答 4件，その他 8技術
2. 企業新人研修の一環として機械力学と材料力学に関し，各々10日間の講義演習を実施した。
3. 独立行政法人 原子力安全基盤機構の電気工作物検査員研修として，合計6日間の講義を実施した。
4. 関連書類の見直しを行い，手続き過程を簡素化し迅速化を図った。
5. 講義を主体とした相談案件の増加に伴い，講義・講演用の契約書フォームを新たに設けた。
6. 相談事業委員会ホームページの変更を行った。
7. 関西支部シニア会から委員を迎え，シニア活用に関する情報交換と連携策の検討を行った。
8. 委員から推薦された技術アドバイザー候補の承認・依頼を行った。

2008年度（第86期）

〔技術相談事業委員会（産官学連携センター）〕

1. 技術相談事業件数：16件（有料回答 4件：内1件は引継案件，無料回答 4件，その他 8技術
2. 企業新人研修の一環として機械力学と材料力学に関し，各々10日間の講義演習を実施した。
3. 独立行政法人 原子力安全基盤機構の電気工作物検査員研修として，合計6日間の講義を実施した。
4. 関連書類の見直しを行い，手続き過程を簡素化し迅速化を図った。
5. 講義を主体とした相談案件の増加に伴い，講義・講演用の契約書フォームを新たに設けた。
6. 相談事業委員会ホームページの変更を行った。
7. 関西支部シニア会から委員を迎え，シニア活用に関する情報交換と連携策の検討を行った。
8. 委員から推薦された技術アドバイザー候補の承認・依頼を行った。

〔中小企業支援事業委員会（能力開発促進機構）〕

1. 中小企業の人材育成支援として各地域の企業・大学と本会のシニア活用を連携させる経産省受託事業「産学人材育成パートナーシップ」のH21以降の自立化ならびに事業展開の方針を策定した。
2. 各地域での持続的な運営支援策として，受講者派遣企業や施設等提供企業ならびに事業に貢献のあった公設機関に対する顕彰制度について，検討を行った。
3. 中小企業庁事業「新現役チャレンジ支援」との連携に関する検討を行った

〔人材活躍・中小企業支援事業委員会（イノベーションセンター）〕

2009年度（第87期）

1. 中小企業基盤整備機構と連携し，「新現役チャレンジ支援事業」を受託し，各支部のシニア会とも連携し，シニア人材と支援を必要とする中小企業とのマッチングを行った。また，本会シニア人材のデータベースを整理した。
2. 産官学連携センター 技術相談事業委員会事業を引き継ぎ，今年度10件，累計141件の技術相談件数となった。
3. ㈱ニコンの機械力学・材料力学の新人教育にアドバイザを講師として派遣。5月と8月に各々2名ずつ10日間のコースを担当した（次年度継続予定）。
4. 今年度年次大会特別企画として，市民フォーラム「中小企業と学会の連携」，ワークショップ「学会のシニア活躍支援への取り組み」を実施した。

2010年度（第88期）

1. 技術相談申し込みに対応し，業務請負契約を締結した。技術相談対応件数：今年度12件。累計153件の相談件数となった。
2. ㈱ニコンの機械力学・材料力学の新人教育にアドバイザを講師として派遣。5月と7月に各々2名ずつ10日間のコースを担当した。次年度継続予定。
3. 中小企業診断協会との連携について，本会との相互連携に関する包括的覚書(案)が2010年10月6日の理事会で承認され，締結した。

39. 教育関連支援事業の変遷

4. 東京大学 大学発教育支援コンソーシアム推進機構から、小・中・高等学校理科支援活動への参画モデル事業に対するコーディネータ募集の協力依頼があり、3名を推薦した。
5. 関東支部との合同企画として、「元気な中堅・中小企業大集合・機械技術者と元気な中堅・中小企業との交流会」を実施した。

2011 年度（第 89 期）

1. 技術相談申し込みに対応し、業務請負契約を締結した。技術相談対応件数：今年度 11 件。累計 164 件の相談件数となった。
2. (株)ニコンの機械力学・材料力学の新人教育にアドバイザーを講師として派遣。5 月と 7 月に各々 2 名ずつ 10 日間のコースを担当した。次年度継続予定。
3. 東京大学 大学発教育支援コンソーシアム推進機構 主催「大学発教育支援コンソーシアム 第 4 回シンポジウム」に後援し、ポスター・パンフレット展示を行った。
4. 2011 年 2 月に関東支部東京ブロックとの合同企画として、「中小企業診断協会と新現役（シニア人材）の連携を探る」を実施した。
5. 本会が開催する出前講座に関して、ニーズ、技術分野の調査を実施した。

2012 年度（第 90 期）

1. 技術相談申し込みに対応し、一部は業務請負契約を締結した。技術相談対応件数：今年度 12 件。累計 190 件の相談件数となった。
2. (株)ニコンの機械力学・材料力学の新人教育に会員シニアを講師として派遣。5 月と 9 月に各々 2 名ずつ 10 日間のコースを担当した。また、機械力学基礎講座が追加となり、会員シニアを講師として派遣。7 月に 1 名が 5 日間のコースを担当した。講師 1 名の人選を行った。次年度継続予定。
3. 2013 年 1 月に関東支部との合同企画として、「シニア技術者が活躍できる社会を目指して」を実施した。

2013 年度（第 91 期）

1. 技術相談申し込みに対応し、一部は業務請負契約を締結した。技術相談対応件数：今年度 13 件。累計 203 件の相談件数となった。
2. (株)ニコンの機械力学・材料力学の新人教育に会員シニアを講師として派遣。5 月と 9 月に各々 2 名ずつ 10 日間のコースを担当した。5 月と 7 月に、10 日間 2 つのコースに各 2 名、4 日間コースに 1 名、2 日間コースに 1 名が担当した。材料力学基礎講座が追加となり、会員シニア 1 名を人選して講師として派遣。次年度継続予定。
3. 2014 年 1 月に関東支部との合同企画・神奈川県中小企業診断協会協賛で、「中小企業診断協会と新現役（シニア人材）の連携の促進を図る」を実施した。

2014 年度（第 92 期）

1. 技術相談申し込みに対応し、一部は業務請負契約を締結した。技術相談対応件数：今年度 13 件。累計 216 件の相談件数となった。
2. 出前講座として光学メーカーの機械力学・材料力学の新人教育に会員シニアを講師として派遣。5 月と 6 月に、10 日間 2 つのコースに各々 2 名ずつ、4 日間コース 2 つのコースに各 1 名ずつ担当した。次年度継続予定。
3. 2015 年 1 月に関東支部との合同企画・神奈川県中小企業診断協会協賛で、シニア人材フォーラム「シニア活躍への JSME 支援活動について ～新たな展開へ向けて～」を実施した。
4. シニア人材支援事業のために 55 歳～75 歳（メール登録者）にデータ再登録などのアンケートを実施し、シニア会への要望なども調査した。
5. 企業側のニーズとしてシニア活躍支援および出前講座のニーズを調査して、新たに 2 件のマッチング、1 件の出前講座を実施した。

2015 年度（第 93 期）

1. 技術相談対応の結果として、相談元に対する講習会の実施および人材の紹介を行った。技術相談対応件数：今年度 12 件（うち 4 件成立）。累計 228 件となった。
2. 出前講座として光学メーカーの新人教育に会員シニアを講師として派遣し、5～7 月に機械力学および材料力学の講習会を各 10 日間実施した。
3. 今年度までに設立された北海道支部、東北支部、中国・四国支部、関東支部シニア会を加えた

39. 教育関連支援事業の変遷

- 各支部シニア会の代表者を招集し、シニア会相互の情報・意見交換を行った。
4. 神奈川県経営者協会企業研修センター等に対し、シニア人材のマッチングに関する連携アプローチを行った。

2016 年度（第 94 期）

1. 技術相談対応の結果として、相談元に対する講習会の実施および人材の紹介を行った。技術相談対応件数：今年度 14 件（うち 2 件マッチング検討中）。累計 244 件となった。
2. 出前講座として、光学メーカーの新人教育に会員シニアを講師として派遣し、5～6 月に機械力学および材料力学の講習会を各 5 日間実施した。
3. 今年度までに、全支部にシニア会が設立された。各支部シニア会の代表者を委員に招集し、シニア会相互の情報・意見交換を行った。
4. 一般社団法人中部産業連盟（中部経済産業局）、中小企業庁 埼玉県よろず支援拠点等に対し、シニア人材のマッチングに関する連携アプローチを行った。

39. 教育関連支援事業の変遷

【JABEE 関連】

[JABEE 対応委員会（能力開発促進機構）]

2007 年度（第 85 期）

1. 日本技術者教育認定機構（JABEE）「機械及び機械関連分野審査委員会」へ委員を派遣し、審査及びそれらに関する運営、調査等に協力した。
2. 日本技術者教育認定機構（JABEE）機械及び機械関連分野要件の見直し改正を行った。

2008 年度（第 86 期）

1. JABEE より認定・審査事業を受託した。
 - ・機械及び機械関連分野：新規，継続および中間審査
 - ・工学（融合複合・新領域）関連分野：中間審査また受審を検討している教育機関に個別受審指導を行った。
2. JABEE 機械及び機械関連分野審査委員会の運営，工学（融合複合・新領域）関連分野への委員派遣を通じ，技術者教育プログラムの審査・認定に協力した。
3. JABEE 認定・審査調整委員会，総務委員会，文科省委託事業関係委員会，運営委員会等に委員を派遣して，JABEE の運営に改善に協力した。
4. 年次大会（会場：横浜国立大学）にて審査員研修会を開催し，修了者のうち数名を今年度のオブザーバとしてプログラム審査に派遣した。
5. 継続審査に対する審査・認定基準等について討議を行った。
6. 本会職員がプログラム審査に陪席し JABEE 審査の理解を深めると共に，事務作業効率の具体化方策の検討を行った。

[JABEE 事業委員会（イノベーションセンター）]

2009 年度（第 87 期）

1. JABEE より認定・審査事業を受託した。
 - ・機械及び機械関連分野：新規，継続および中間審査
 - ・工学（融合複合・新領域）関連分野：継続審査
2. JABEE 機械及び機械関連分野審査委員会の運営，工学（融合複合・新領域）関連分野への委員派遣を通じ，技術者教育プログラムの審査・認定に協力した。
3. JABEE 理事会，認定委員会，財務・企画委員会，認定事業部門委員会，認定・審査調整委員会，基準総合調整委員会，基準委員会，審査事務連絡会に委員を派遣して，JABEE の運営や改善に協力した。
4. 年次大会（会場：岩手大学）にて審査員研修会を開催し，修了者のうち数名を今年度のオブザーバとしてプログラム審査に派遣した。

2010 年度（第 88 期）

1. JABEE より認定・審査事業を受託した。
 - ・機械及び機械関連分野：継続審査
 - ・工学（融合複合・新領域）関連分野：継続審査
2. JABEE 機械及び機械関連分野分野別委員会（機械及び機械関連分野の JABEE 認定・審査活動全般について討議する）および分野別審査委員会（当該年度に行われる機械及び機械関連分野の審査について討議する）を設置した。
3. JABEE 機械及び機械関連分野分野別審査委員会の運営，工学（融合複合・新領域）関連分野への委員派遣を通じ，技術者教育プログラムの審査・認定に協力した。
4. JABEE 理事会，認定委員会，認定会議，財務・企画委員会，国際委員会，認定・審査調整委員会，変更通知対応 WG，研修部会，基準総合調整委員会，基準委員会，審査事務連絡会に委員を派遣して，JABEE の運営や改善に協力した。
5. 年次大会（会場：名古屋工業大学）にて審査員研修会を開催し，修了者のうち数名を今年度のオブザーバとしてプログラム審査に派遣した。

2011 年度（第 89 期）

1. JABEE より認定・審査事業を受託した。
2. 機械及び機械関連分野：新規・継続・中間審査

39. 教育関連支援事業の変遷

3. 工学（融合複合・新領域）関連分野：新規・継続審査
4. JABEE 機械及び機械関連分野分野別委員会（機械及び機械関連分野の JABEE 認定・審査活動全般について討議する）および分野別審査委員会（当該年度に行われる機械及び機械関連分野の審査について討議する）を組織した。
5. JABEE 機械及び機械関連分野分野別審査委員会の運営，工学（融合複合・新領域）関連分野への委員派遣を通じ，技術者教育プログラムの審査・認定に協力した。
6. JABEE 理事会，認定会議，認定事業委員会，基準委員会，基準総合調整委員会，認定・審査調整委員会，広報・啓発委員会，国際委員会，変更通知対応 WG，研修部会，審査事務連絡会に委員を派遣して，JABEE の運営や改善に協力した。
7. 年次大会（会場：東京工業大学）にて「2011 年度 JABEE 新人審査員研修フォーラム」と題して，審査員研修会を開催した。

2012 年度（第 90 期）

1. JABEE より認定・審査事業を受託した。
 - ・機械及び機械関連分野：新規・継続・中間審査
 - ・工学（融合複合・新領域）関連分野：継続・中間審査
2. JABEE 機械及び機械関連分野分野別委員会（機械及び機械関連分野の JABEE 認定・審査活動全般について討議する）および分野別審査委員会（当該年度に行われる機械及び機械関連分野の審査について討議する）を組織した。
3. JABEE 機械及び関連の工学関連分野 分野別審査委員会の運営，工学（融合複合・新領域）及び関連のエンジニアリング分野への委員派遣を通じ，技術者教育プログラムの審査・認定に協力した。
4. JABEE 理事会，認定会議，認定事業委員会，基準委員会，基準総合調整委員会，認定・審査調整委員会，広報・啓発委員会，国際委員会，変更通知対応 WG，審査方式・研修部会，拡大運営会議，審査事務連絡会に委員を派遣して，JABEE の運営や改善に協力した。
5. 年次大会（会場：金沢大学）にて「2012 年度 JABEE 新人審査員研修フォーラム」と題して，審査員研修会を開催した。今回及び過去の研修修了者のうち 9 名を今年度のオブザーバとしてプログラム審査に派遣した。

2013 年度（第 91 期）

1. JABEE より認定・審査事業を受託した。
 - ・機械及び機械関連分野：新規・中間審査
 - ・工学（融合複合・新領域）関連分野：新規審査
2. JABEE 機械関連分野分野別委員会（機械及び関連の工学分野／機械および機械関連分野の JABEE 認定・審査活動全般について討議する）および分野別審査委員会（当該年度に行われる機械関連分野の審査について討議する）を組織した。
3. JABEE 機械及び関連の工学関連分野 分野別審査委員会の運営，工学（融合複合・新領域）及び関連のエンジニアリング分野への委員派遣を通じ，技術者教育プログラムの審査・認定に協力した。
4. JABEE 理事会，認定会議，認定事業委員会，基準委員会，基準総合調整委員会，認定・審査調整委員会，広報・啓発委員会，国際委員会，一斉審査方式推進委員会，変更通知対応 WG，審査方式・研修部会，拡大運営会議，審査事務連絡会に委員を派遣して，JABEE の運営や改善に協力した。
5. 年次大会（会場：岡山大学）にて「2013 年度 JABEE 新人審査員研修フォーラム」と題して，審査員研修会を開催した。今回までの研修修了者のうち 4 名を今年度のオブザーバとしてプログラム審査に派遣した。

2014 年度（第 92 期）

1. JABEE より認定・審査事業を受託した。
 - ・機械及び関連の工学分野／機械および機械関連分野：新規・継続・中間審査
 - ・工学（融合複合・新領域）関連分野：新規・継続・中間審査
2. JABEE 機械関連分野分野別委員会（機械及び関連の工学分野／機械および機械関連分野の JABEE 認定・審査活動全般について討議する）および分野別審査委員会（当該年度に行われる機械関連分野の審査について討議する）を組織した。
3. JABEE 機械関連分野 分野別審査委員会の運営，工学（融合複合・新領域）関連分野への委員派

39. 教育関連支援事業の変遷

- 遣を通じ、技術者教育プログラムの審査・認定に協力した。
4. JABEE 理事会、認定会議、認定事業委員会、基準委員会、基準総合調整委員会、認定・審査調整委員会、広報・啓発委員会、国際委員会、一斉審査方式推進委員会、変更通知対応 WG、審査方式・研修部会、拡大運営会議、審査事務連絡会に委員を派遣して、JABEE の運営や改善に協力した。
 5. 年次大会（会場：東京電機大学）にて「2014 年度 JABEE 新人審査委員研修フォーラム」と題して、審査員研修会を開催した。今回までの研修修了者のうち 7 名を今年度のオブザーバとしてプログラム審査に派遣した。

2015 年度（第 93 期）

1. JABEE より認定・審査事業を受託した。
 - ・機械及び関連の工学分野／機械および機械関連分野：継続・中間審査
 - ・工学（融合複合・新領域）関連分野：継続・中間審査
2. JABEE 機械関連分野分野別委員会（機械及び関連の工学分野／機械および機械関連分野の JABEE 認定・審査活動全般について討議する）および分野別審査委員会（当該年度に行われる機械関連分野の審査について討議する）を組織した。
3. JABEE 機械関連分野 分野別審査委員会の運営、工学（融合複合・新領域）関連分野への委員派遣を通じ、技術者教育プログラムの審査・認定に協力した。
4. JABEE 理事会、認定事業委員会、基準総合調整委員会、認定・審査調整委員会、広報・啓発委員会、国際委員会、変更通知対応 WG、研修部会、拡大運営会議、審査事務連絡会に委員を派遣して、JABEE の運営や改善に協力した。
5. 年次大会（会場：北海道大学）にて「2015 年度 JABEE 新人審査委員研修フォーラム」と題して、審査員研修会を開催した。今回までの研修修了者のうち 12 名を今年度のオブザーバーとしてプログラム審査に派遣した。

2016 年度（第 94 期）

1. JABEE より認定・審査事業を受託した。
 - ・機械及び関連の工学分野／機械および機械関連分野：継続・中間審査
 - ・工学（融合複合・新領域）関連分野：継続・中間審査
2. JABEE 機械関連分野分野別委員会（機械及び関連の工学分野の JABEE 認定・審査活動全般について討議する）および分野別審査委員会（当該年度に行われる機械及び関連の工学分野の審査について討議する）を組織した。
3. JABEE 機械関連分野 分野別審査委員会の運営、工学（融合複合・新領域）関連分野への委員派遣を通じ、技術者教育プログラムの審査・認定に協力した。
4. JABEE 理事会、認定事業委員会、基準総合調整委員会、認定・審査調整委員会、広報・啓発委員会、国際委員会、変更通知対応 WG、研修部会、拡大運営会議、審査事務連絡会に委員を派遣して、JABEE の運営や改善に協力した。
5. 年次大会（会場：九州大学）にて「2016 年度 JABEE 新人審査委員研修フォーラム」と題して、審査員研修会を開催した。今回までの研修修了者のうち 11 名を今年度のオブザーバーとしてプログラム審査に派遣した。